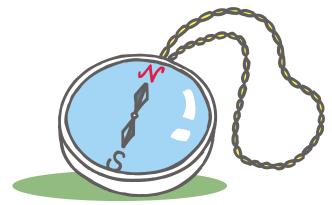


# 羅針盤



第 34 号 令和4年(2022年)3月14日(月)

## ◆ アインシュタインの言葉が教えてくれること

先週末の3月11日(金)に挙行した本校の卒業証書授与式で、第75期生の皆さんに式辞を通じて贈ったアインシュタインの言葉を紹介します。3月のイベントといえば、雛祭りやホワイトデーを思い浮かべる人が多いでしょう。実は、ホワイトデーである今日3月14日は、1921年にノーベル物理学賞を受賞した理論物理学者であるアルベルト・アインシュタインがドイツで生まれた日でもあります。現在も「現代物理学の父」として広く知られており、彼の研究の成果はそれまでの物理学の認識を根本から変えるもので、「20世紀最高の物理学者」とも評されています。アインシュタインは、物理学者としての業績の他にも、優れた哲学の持ち主として数々の名言を残しています。卒業生の皆さんに贈った言葉。それは、「間違いを犯したことのない人というのは、何も新しいことをしていない人のことだ」です。新しいことに何も挑戦しなければ、間違うことも失敗することも経験せずに済んでしまいます。でも、「失敗しないこと」を第一に考えて過ごしているだけでは、進歩も新しい発見も生み出すことはできないはずです。宇宙のしくみや物質間の関係などについて、自分の頭の中で思考実験を繰り返しながら理論を組み立てたという、アインシュタインならではの、深遠な言葉です。アインシュタインのように、間違うことや失敗を恐れずに、何度も挑戦することはとても大切なことです。とは言っても、単に同じことを繰り返すだけでは全く意味がありません。チャレンジ精神が旺盛なことは良いことですが、似たような失敗ばかりを繰り返していても、決して前には進むことができないはずです。だからこそ、「問題が生じたときと同じ考え方をしていたら解決はできない」という言葉を、同じくアインシュタインが残しています。失敗をした時は、まずは原因となることを徹底的に検証するとともに、別の角度からも問題を見つめ直し、新たな発想を生み出す努力が必要であるということです。常に新しいことに挑むチャレンジ精神と、失敗に真摯に向き合って、これまで持ち合っていた考え方を変えるといった柔軟性が求められるということです。失敗をプラスに転じて、成果を手にするためには、この両方が必要であることを、

アインシュタインは教えてくれています。チャレンジする気持ちを持続すること、そして、多角的な(いろいろな角度からの)広い視野で物事を見る力を持合わせることが何よりも大切なことです。天才科学者であったアインシュタインでさえ、何度も何度も失敗を繰り返す中で、それでも決して諦めることなく、自分自身の信じた考え方を見つけ出すまで、実験方法を変え、工夫もしながら取り組んだはずです。同じ方法では解決にいたらないときにこそ、どのような手立てがうてるのか、そこに、人間の知恵や創意工夫が満ち溢れていると思います。生徒の皆さんにも、是非とも、そういった知恵を身につけて、これから生き抜く将来が心豊かなものであってほしいと心より願っています。

